

航路標識の歴史と大間埼灯台100年の歩み ~津軽海峡を照らして100年~

江戸

1610 1820 1860 1870 1880 1890 1890 明治30



【コルドアン灯台 (フランス)】
写真の出展：『世界の灯台』
発行者：新成山堂書店

一八一二年
フランス西海岸に、現在でも最も美しい灯台の一つに数えられているコルドアン灯台が建設される。



【第1号灯器】
写真の出展：『世界の灯台』
発行者：新成山堂書店

一八二二年
フレネルレンズが考案される。

一八五三年
ペリー提督率いる米国軍艦4隻が浦賀に入港。

一八五八年
アメリカ、オランダ、ロシア、イギリス、フランスと修好通商条約を締結。神奈川、長崎、函館、兵庫、新潟の5港を開港。

一八六六年
アメリカ、イギリス、フランス、オランダと江戸条約締結。江戸幕府は、この条約で外航船の安全の確保のため、灯台の設置を約束。



【(初代) 観音埼灯台 (神奈川県横須賀市)】

一八六八年(明治元年)
ヴェルニーを技師長とするフランス人技術者集団により観音埼に我が国初の洋式灯台の建設が始まる。



【フランソワ・ヴェルニー】

一八七〇(明治三年)
イギリスの技術者プラントンにより、30基の灯台が建設され、我が国の灯台創世記の基礎を作る。



【神子元島灯台 (静岡県下田市)】
プラントンが最初に建設し、現存する我が国最古の灯台。

一八八四年(明治十七年)
初の日本人技術者による灯台が鞍埜に建設される。

大正

昭和

1900 明治40 1910 1920 大正10 1930 昭和10 1940 昭和20 1950 昭和30

一九〇四年(明治三十七年)
日露戦争勃発。

一九一四年(大正三年)
第一次世界大戦勃発。

一九二〇年(大正九年)
大間埼灯台の建設が始まる。



【(初代) 大間埼灯台 (青森県下北郡大間町)】
提供：(公社)燈光会 ※昭和7年ころ撮影

一九二一年(大正一〇年)
大間埼灯台初点灯。
大間埼霧信号所業務開始。

一九三二(昭和七年)
日本初の電波の灯台である無線標識局が尻屋崎、恵山岬、耗ヶ崎に設置。
大間埼無線方位信号所(中波)を設置。



【カムフラージュした室戸岬灯台 (高知県高知市)】

一九三九年(昭和十四年)
第二次世界大戦勃発。

一九四五年(昭和二十年)
第二次世界大戦終戦。
大間埼灯台、戦災により大破。



【大久保初代長官による庁旗掲揚】

一九四八年(昭和二十三年)
海上保安庁発足。

一九五二年(昭和二十七年)
大間埼灯台、十勝沖地震により被災。

一九五三年(昭和二十八年)
二代目となる現在の大間埼灯台に建て替え。

一九五四年(昭和二十九年)
大間埼灯台において船舶気象通報業務開始。

一九五六年(昭和三十一年)
日本初の無人灯台(伊島灯台)完成。

平成

令和

1960 昭和40 1970 昭和50 1980 昭和60 1990 平成10 2000 平成20 2010 平成30 2020

一九六四年(昭和三十九年)
大間埼灯台の管理を滞任管理(四人が一週間交代)に移行。

大間埼無線方位信号所(レーダービーコン)を設置。



白熱電球を使用していた光源にLED光源を採用。光源の省エネ化により電源の太陽電池化が促進。

一九八九年(平成元年)
灯台にLED灯器を使用。

一九九一年(平成三年)
大間埼灯台の管理を見回りに移行(無人化)に移行。

一九九九年(平成十一年)
大間埼灯台にLUIM灯器を使用。(白熱電球をメタルハライドランプに変更。)

二〇〇六年(平成十八年)
大型太陽電池設置により全国の灯台における滞在勤務が全て解消。

二〇〇八年(平成二十年)
大間埼無線方位信号所(レーダービーコン)を廃止。



メタルハライドランプを使用していた光源にLED光源を採用し、電源を太陽電池化。

二〇〇九年(平成二十一年)
大間埼灯台にLED灯器を使用。
大間埼霧信号所を廃止。

二〇一八年(平成三〇年)
灯台一五〇周年。



【ライトアップされた大間埼灯台 (R2.11.1)】

二〇二一年(令和三年)
大間埼灯台点灯一〇〇周年。